

## 2022 年度(4 月～10 月)の利用状況と決算見込みについて

2022 年 12 月  
あいの風とやま鉄道株式会社

## I 利用状況

## 1 利用者数等

## (1) 1日当たりの利用者数

2022 年 4 月～10 月までの 7 か月間の利用者数は、全体で 8,238 千人、1 日当たりの利用者数は、38,495 人と、前年比 10.2%の増加となっています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響がなかった 2019 年との比較では、△ 11.2%の減少となっております。

定期外を中心に前年からは大きな回復を示しているものの、コロナ前と比べると依然として、減少となっており、コロナの影響が続いている状況です。

利用者の区分別では、定期は通勤・通学とも前年比では増加しているものの、2019 年比では、通勤で 9.4%、通学で 4.0%の減少となっています。

定期外は、前年比では 45.1%の大幅な増加となっているものの、2019 年比では、24.4%の減少となっています。

表 1 1日当たり利用状況等 (4 月～10 月)

区 分	2022 年	2021 年	2019 年	2022/2021	2022/2019
利用者数 (千人)	8,238	7,477	9,273	10.2%	△ 11.2%
1日当たり (人/日)	38,495	34,941	43,331	10.2%	△ 11.2%
定期利用者	29,821	28,964	31,862	3.0%	△ 6.4%
通勤	12,884	12,678	14,218	1.6%	△ 9.4%
通学	16,937	16,286	17,644	4.0%	△ 4.0%
定期外利用者	8,674	5,977	11,469	45.1%	△ 24.4%
乗車券類	5,317	3,808	7,847	39.6%	△ 32.2%
ICカード	3,358	2,169	3,622	54.8%	△ 7.3%

## (2) 月別の利用者数

前年との比較では、5 月、8 月及び 9 月が定期外を中心に、伸び率が高くなっています。5 月は連休中の利用者が多かったこと、8 月、9 月については、前年の利用者が少なかったことの反動と思われます。

一方、コロナ第 7 波の時期であった、7 月は伸び率が低くなっています。

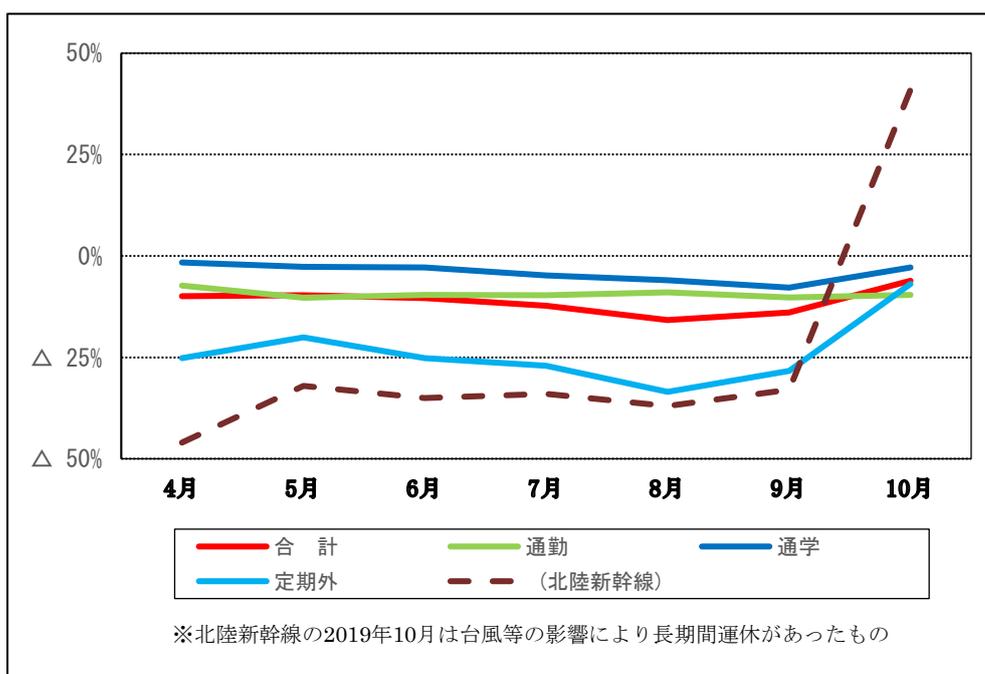
2019 年比でみると、各月ともまだ減少となっていますが、10 月は全体で 6.1%の減少、定期外では 6.9%の減少にとどまっており、全国旅行支援の効果等による、回復傾向がみられるものと考えられます。

表2 利用者数の月別増減率（4月～10月）

（単位：％）

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
合計	2021年比	7.6%	13.1%	8.6%	5.5%	14.4%	13.5%	9.3%
	2019年比	△9.9%	△9.7%	△10.4%	△12.3%	△15.8%	△13.9%	△6.1%
定期	2021年比	1.6%	2.5%	2.3%	2.2%	4.9%	4.5%	3.1%
	2019年比	△4.1%	△6.1%	△5.7%	△7.0%	△7.4%	△8.8%	△5.8%
通勤	2021年比	0.6%	1.1%	1.7%	1.2%	1.9%	2.6%	2.4%
	2019年比	△7.3%	△10.3%	△9.6%	△9.7%	△9.0%	△10.2%	△9.6%
通学	2021年比	2.3%	3.6%	2.7%	2.9%	7.8%	6.1%	3.6%
	2019年比	△1.6%	△2.7%	△2.8%	△4.8%	△6.0%	△7.8%	△2.8%
定期外	2021年比	34.7%	71.5%	44.4%	19.7%	56.3%	64.2%	36.5%
	2019年比	△25.2%	△20.1%	△25.2%	△27.1%	△33.5%	△28.3%	△6.9%
乗車券	2021年比	33.6%	65.3%	40.6%	14.9%	46.9%	52.7%	32.5%
	2019年比	△31.4%	△28.6%	△33.6%	△34.7%	△39.7%	△38.3%	△15.5%
I C カード	2021年比	36.5%	82.5%	50.6%	28.2%	74.5%	84.2%	43.3%
	2019年比	△11.4%	△1.0%	△6.9%	△10.7%	△20.2%	△6.5%	10.5%
参考 北陸新幹線	2021年比	64%	173%	122%	58%	129%	141%	71%
	2019年比	△46%	△32%	△35%	△34%	△37%	△33%	41%

図1 月別減少率の推移（2022年対2019年）



## 2 運賃収益

2022年4月～10月の全体の運賃収入額は1,477百万円で、前年同期比では20.7%の増加となっています。

JR切符販売手数料収入も、JR線利用の増加に伴い、前年度比146.9%の大幅な増加となっています。

2019年との比較では、定期外が△25.2%、定期では通勤が△10.7%と減少が続いておりますが、通学では△1.9%で、コロナ前に近い金額に戻っています。

JR切符販売手数料は、△49.5%で依然としてコロナ前の半分程度にとどまっています。

表3 運賃収益 (4月～10月)

(単位 千円 %)

区 分		2022年度	2021年度	2019年度	2022/2021	2022/2019	
運賃収益 (税抜)	定期	通 勤	445,740	442,490	499,181	0.7%	△10.7%
		通 学	293,016	280,991	298,617	4.3%	△1.9%
		計	738,756	723,481	797,798	2.1%	△7.4%
	定期外	乗車券類	458,820	322,648	692,495	42.2%	△33.7%
		I Cカード	279,774	177,975	295,387	57.2%	△5.3%
		計	738,595	500,624	987,882	47.5%	△25.2%
合 計		1,477,352	1,224,106	1,785,681	20.7%	△17.3%	
JR切符販売手数料		14,231	5,764	28,186	146.9%	△49.5%	

## II 決算見込み

### ○概要

運賃収入については、コロナウィルスの影響が減少し、利用者数の回復がみられることから25億円程度を確保できるものと見込んでいます。(前年度比3.6億円増加)  
貨物線使用料等の収入も、予算額程度が確保できるものと見込んでいます。

この結果、経常損益では、2.8億円程度の赤字となるものの、前年度よりは2億円程度の改善となり、県経営安定基金やコロナ対策等の補助金等の支援を受け、最終損益では黒字が確保できることが見込まれます。

#### 1 営業収益 5,404百万円

運賃収入は、利用者数の回復を受け、コロナ前の85%程度にあたり、前年度比で3.6億円増の、2,500百万円を見込んでいます。

貨物線使用料については、ほぼ前年度並みの2,165百万円を見込んでいます。

その他、関連事業収入では、駅利用者数の増加に伴う自動販売機やコインロッカー収入等の増加、観光列車の利用者数の回復などにより増加を見込んでいます。

なお、収入額については、今後のコロナ感染の動向や、今冬の降雪による影響等により、今後、変動がでることも予想されます。

#### 2 営業費用 5,787百万円

動力費は電力価額の上昇を受け、前年度比70百万円の大幅な増加となっています。その他、業務費についても、利用者数の増加や諸物価高騰に伴う費用の増加がみられます。

修繕費は、安全確保のため、ほぼ例年並みの体制で工事等を行っていることや、橋梁塗装の大規模修繕工事があること等から前年度比では増加となっています。

除雪費は、今冬は例年以上の降雪が予想されていることから、前年度を上回る50百万円を見込んでいます。

減価償却費、租税公課は、開業後の投資に伴う費用や固定資産税等が増加しています。

#### 3 損益等

上記の他、営業外収支で96百万円の黒字となる他、特別利益として、今期はコロナ対策や燃料高騰対策の費用補助金等を160百万円程度、見込んでおります。

この他、設備関係補助金等の収入と圧縮、税処理等を行った最終損益は、黒字が確保できるものと見込んでいます。

なお、県経営安定基金補助金(費用分)は、今回の決算見込みでは140百万円(予算額309百万円)を見込んでおります。

#### ○各段階での損益

営業損益	△382百万円 (前年度	△512百万円)
経常損益	△286百万円 (前年度	△487百万円)
税引前損益	16百万円 (前年度	29百万円)
純利益	4百万円 (前年度	6百万円)

## 2022年度 決算見込み

2022/12 あいの風とやま鉄道(株)  
単位 千円

科目	2021年度	2022年度			
	決算	予算	決算見込	対2021決算比	備考
運輸収入	2,160,018	2,536,000	2,520,000	359,982	
運賃	2,147,311	2,520,000	2,500,000	352,689	11月以降概算(対2018年度) 通勤90%通学100%一般80%
マルス収入	12,707	16,000	20,000	7,293	マルス50%
鉄道線路使用料収入	2,150,808	2,175,000	2,165,000	14,192	
関連事業	230,082	269,606	270,234	40,152	
清算収入	463,407	476,750	445,374	△ 18,033	
その他	11,035	4,000	3,992	△ 7,043	
<b>【売上総利益】</b>	<b>5,015,351</b>	<b>5,461,356</b>	<b>5,404,600</b>	<b>389,249</b>	
人件費	1,785,685	1,800,000	1,803,210	17,525	
動力費	303,904	300,000	374,400	70,496	燃料費高騰
業務費	641,497	762,269	703,352	61,855	
清算費用	542,123	523,310	505,503	△ 36,620	
修繕費	1,818,416	2,045,582	1,925,524	107,108	除雪費を含む
減価償却費	242,122	250,000	265,000	22,878	
租税公課	193,515	229,300	210,472	16,957	
<b>【販売費・一般管理費】</b>	<b>5,527,263</b>	<b>5,910,461</b>	<b>5,787,461</b>	<b>260,198</b>	
<b>【営業利益】</b>	<b>△ 511,912</b>	<b>△ 449,105</b>	<b>△ 382,861</b>	<b>129,051</b>	
<b>【営業外収益】</b>	<b>121,573</b>	<b>1,043,986</b>	<b>707,447</b>	<b>585,874</b>	受託工事収入等
<b>【営業外費用】</b>	<b>96,688</b>	<b>895,640</b>	<b>610,824</b>	<b>514,136</b>	
<b>【経常利益】</b>	<b>△ 487,028</b>	<b>△ 300,759</b>	<b>△ 286,238</b>	<b>200,790</b>	
<b>【特別利益】</b>	<b>3,317,325</b>	<b>2,967,195</b>	<b>1,948,700</b>	<b>△ 1,368,625</b>	基金・コロナ・燃料高騰補助 設備補助(車両、滑川EV等)
<b>【特別損失】</b>	<b>2,801,369</b>	<b>2,649,045</b>	<b>1,646,000</b>	<b>△ 1,155,369</b>	圧縮処理等
<b>【税引前当期純利益】</b>	<b>28,928</b>	<b>17,391</b>	<b>16,462</b>	<b>△ 12,466</b>	
法人税等	22,825	12,500	12,000	△ 10,825	
<b>【当期純利益】</b>	<b>6,103</b>	<b>4,891</b>	<b>4,462</b>	<b>△ 1,641</b>	